

令和8年度 自己評価計画書

石川県立七尾東雲高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 学習環境の充実と「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり【わかる授業による指導】	① 基礎学力の定着を目標に、10分間の朝学習にしっかり取り組ませる。	教務課 全学年	主体的・対話的で深い学びの実現に向けては、基礎学力の充実が不可欠である。昨年度10分間に時間を延長した朝学習において、主体的・積極的に取り組む姿勢を醸成していく必要がある。	【成果指標】 生徒全員が真面目に朝学習に取り組んでいる。	真面目に朝学習に取り組んでいると答える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② わかりやすい授業づくりの一環として、特にクロムブック等のICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。	教務課 各教科	ICT機器の活用は浸透してきているが、生徒が主体的に学習し、思考力を高めるために、更にクロムブック等の効果的な活用やGIGAスクール構想を推進し、授業を改善していく必要がある。	【努力指標】 教員が、ICT機器を積極的に活用し、授業改善に努めている。	生徒による授業評価(実習科目を除く)において「ICT機器をよく活用している」及び「活用している」と回答する評価の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	③ 主体的・対話的な授業づくりを目指し、発表活動を効果的に取り入れ、生徒が意欲的に授業に取り組めるようにする。	教務課 各教科	生徒が発言や発表をおこなう場面が大変多いと多いの合計が昨年度は89%であったが、大変多いという評価のみでは53%なので、生徒の発表や学びあいの場を積極的に設定するなどの改善が望まれる。	【満足度指標】 生徒が、主体的に授業に参加し、対話的に学習していると感じている。	生徒による授業評価において「生徒が発言や発表、学びあいをする場面が大変多い」及び「場面が多い」と回答する評価の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	④ わかりやすい授業づくりを目指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。	教務課 各教科	昨年度は授業評価において、生徒が授業を受けてよく理解できた及び理解できたと回答している生徒の合計は92%であったがよく理解できたという評価のみでは59%に留まった。わかる授業を推進するため、生徒指導の3機能を活かした授業の工夫が必要である。	【満足度指標】 生徒が「授業を受けて、理解できた」と感じている。	生徒による授業評価において「授業を受けてよく理解できたと感じる」及び「理解できたと感じる」と回答する評価の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
2 生徒の適性に応じた志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路をしっかりと考え、進路実現に向けて取り組むよう、各行事の事前・事後学習を充実させる。	進路指導課 学級担任	進路選択に際し、自ら将来を見通して、行動できる生徒は少ない。企業ガイダンスや外部の進路相談会等で生徒が能動的に学習できるように、事前・事後学習を推進する必要がある。	【満足度指標】 生徒が「進路ガイダンスは主体的に将来を考える上で役立っている。」と感じている。	学校の進路説明会、企業見学等が、主体的に将来を考える上で役立っているとする生徒の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	各学年の進路行事の際に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② 生徒と保護者が進路について話し合う機会を持てるよう、資料や情報を活用しながら面談等で働きかけ、生徒の進路意識の高揚を図る。	進路指導課 学級担任	保護者面談や進路説明会等において、家庭で、生徒と保護者が将来について話し合う機会を持つようお願いしている。	【成果指標】 家庭で、生徒と保護者が進路について話し合う機会を持っている。	家庭で、生徒・保護者が将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒・保護者にアンケートを実施する。 (生徒・保護者の学校評価)
	③ インターンシップ実施前に、活動の目的や意義を丁寧に説明するとともに、挨拶・返事・言葉遣いなどの基本的な接遇について、繰り返し指導し定着を図る。	2学年 進路指導課	第2学年を対象に、3日間のインターンシップを実施している。実施にあたっては、受け入れ先で適切な挨拶や返事などの基本的な接遇が求められるため、事前指導の充実が必要である。	【成果指標】 インターンシップにおいて、生徒が場に応じた適切な接遇態度(挨拶・返事・言葉遣い等)を身に付け、実践できている。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関して肯定的に評価した企業が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月の実施後、受け入れ企業にアンケートを実施する。
3 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成【心を育てる生徒指導】	① 生徒指導課と教職員、公安委員で「朝のあいさつ運動」に取り組む。	生徒指導課 特別活動課 部活動	積極的なあいさつができていない生徒の割合は70%に留まっている。あいさつの意義を伝えながら「朝のあいさつ運動」に積極的に取り組むとともに、廊下ですれちがう際や教室に入る際のあいさつについても指導していきたい。	【成果指標】 生徒が相手の目を見て自分から進んで大きな声であいさつができていない。	生徒の学校評価において「積極的なあいさつができていない」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
	② 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等を積極的に推進していく。	特別活動課 学級担任	昨年度の自己有用感が高まったと感じている生徒の割合は78%であった。実施の時期について検討しながら、今後もボランティアの意義や思いやりの心などについて考えさせていくとともに、様々なボランティアや地域貢献活動に取り組みしていきたい。	【満足度指標】 生徒が、ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、自己有用感が高まったと感じている。	ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、ボランティア精神や自己有用感が高まったとする生徒の肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Cの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	③ 基本的な生活習慣の確立のため、1日の活力のもととなる朝食の習慣化を目指した指導を行う。	保健環境課	昨年度の心と体の健康調査の結果、普段朝食を時々食べないことがある・ほとんど食べないと回答した生徒が16.0%であった。日中の活動のエネルギー源である朝食の大切さを理解し、朝食を食べることを習慣化させるための指導を行う必要がある。	【成果指標】 生徒が朝食の大切さを理解し、朝食摂取率が向上する。	保護者へのアンケート調査において、生徒が朝食を食べて登校すると答える保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (保護者の学校評価)
	④ 朝の登校指導及び昼の校内巡視を通して、頭髪服装を整えることや、規範意識の大切さを繰り返し指導する。	生徒指導課	アンケートで「登校・校内で服装指導など声かけができています」と回答する教員は95%であり、授業開始時に身だしなみを正す指導を徹底すると同時に、挨拶の励行など、社会人となる基礎的な資質を育成する指導を行うことが必要である。	【努力指標】 全教職員が共通理解のもと、挨拶の励行や規範意識の向上を図るため、生徒に声かけをしている。	登校指導や校内巡視の際に、生徒に声かけしているとする教員の肯定的評価が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)
	⑤ いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないような取組を行う。	生徒指導課	教員は、いじめを未然に防止するため、アンケート調査や生徒面談、登校指導や昼食時の校舎内の巡回を行い生徒理解に努めている。加えて、ネットでの書き込みについても指導を行っているが、さらに組織的・計画的な取組を推進する必要がある。	【努力指標】 教員が、アンケート調査や面談、校内巡視により、生徒の動向を掴み、いじめの未然防止に繋げている。	アンケートや面談での生徒理解や、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止に努めているとする教員の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)
4	保護者・地域から信頼される教育活動の推進【自信を持たせ、経験を積ませる】	① 各学科	7割の生徒が地域と連携する取組に参加できていると実感している。工業科の地元中学生を招いてのものづくり体験教室、観光ガイド等による地域の魅力発見と地域貢献、演劇科で地域の方を招いての定期公演の上演、県内中学校への外部公演、農業科の地元幼稚園、保育園などを招いての「サツマイモ収穫体験」などを実施した。地域との連携や関わりを通じた実践的な学習を、今後も進めていく必要がある。	【成果指標】 工業・演劇・農業・商業の分野での地域と連携する事業や学習において実践的な取組が積極的に行われている。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取組ができているとする生徒の肯定的評価が A 70%以上 B 60%以上 C 55%以上 D 55%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② 生徒が意欲的に取り組むことのできる部活動を展開していく。	特別活動課 学級担任	部活動の活動日に対して、8割以上参加している生徒の割合は、78%に留まっている。部活動の加入率の低下や生徒の意欲の減退が見られる。そのような生徒の数を減らす手立てを考える必要がある。	【成果指標】 生徒が意欲的に部活動に取り組んでいる。	部活動の活動日に対して、8割以上参加しているという生徒の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	③ 本校の教育活動の様子をホームページや校門前掲示板を活用し、学校外部へ効果的に情報を発信する。	総務課 各学科	教職員による記録写真の撮影が気軽に行うことができなくなったことで、部活動など校外での活動の記事の更新が減少した。文字のみでもよいので、大会結果など節目での更新をお願いして、情報発信に対する意識を高めていく必要がある。	【成果指標】 学校外部への効果的な情報発信を行うことができる。	本校の教育活動の様子を学校外部に効果的に情報発信ができているとする教員の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)
5	教職員の働き方改革の推進	① 各課・科・学年の主任	意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいる教職員が前年比2%の減少となった。今年度は、学校で設定する定時退校日、各自で設定する定時退校日をそれぞれ2日ずつ設け、計画的に実施できるようタイムマネジメント意識の向上を図っていく。	【努力指標】 教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいる。	教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)